

家族コミュニケーションの状況とそのあり方

共働き家族と専業主婦家族の比較をまじえて

共働き家族研究会

目 次

I. 調査概要	3
II. コミュニケーションの実態	5
1. コミュニケーションとは	
2. 家庭内での会話の頻度	
3. 家庭内での会話の増加意向	
4. 家庭内での会話の話題	
III. 家族団らんの充実度からみた会話の実態	15
1. 家族団らんの充実度	
2. 家族団らんの充実度と会話の頻度	
3. 家族団らんの充実度と会話の話題	
IV. コミュニケーションを増加させるには	19
1. 在宅時間の増加	
2. 朝の挨拶	
3. 家族の家事協力	

I. 調査概要

1. 調査の目的

家族それぞれが忙しいスケジュールをこなしている現代社会における家族コミュニケーションの状況とそのあり方を把握する。さらにより良いコミュニケーションを実現するためのヒントを探る。

2. 調査対象者

東京近郊在住で小学生～高校生の子どものいる核家族のうち、フルタイム就労主婦と専業主婦を抽出(回答は妻を基本とし、一部夫にも答えてもらった)。なお、対象者は研究会のメンバーである東京ガス(株)都市生活研究所の需要家ネットワーク(TULIP)より抽出。

3. 調査時期 1990年12月

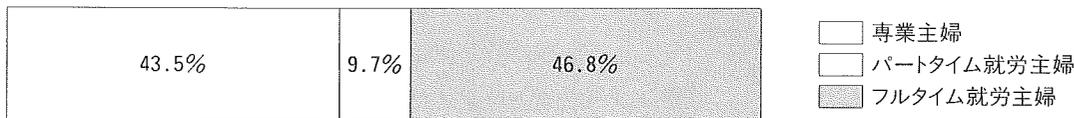
4. 調査方法 往復郵送法

※本報告書中の「DEWKS」という表記は、妻がフルタイム就労で子どものいる共働き家族を指す。

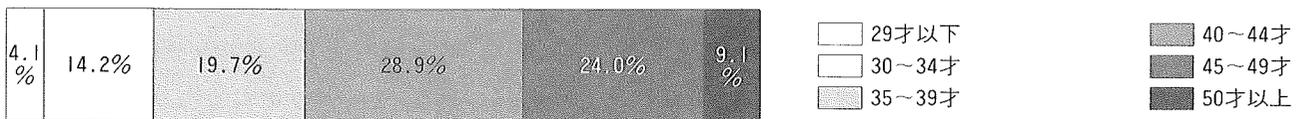
5. 調査対象者概要

(1) サンプル数 618名(配布1309名・有効回収率47.2%)

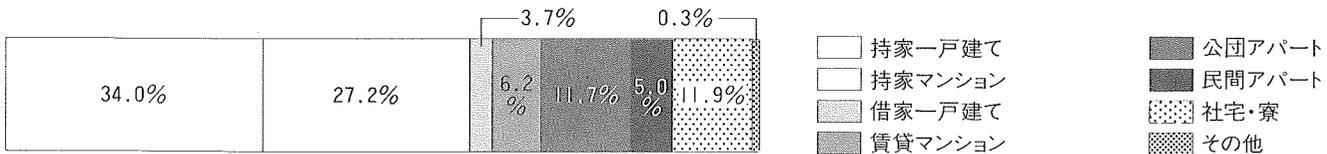
(2) 就業状況



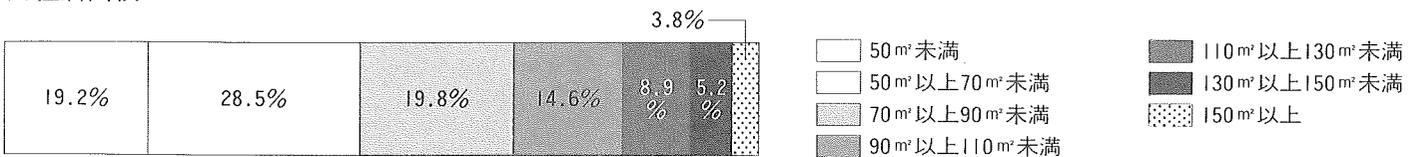
(3) 年齢構成



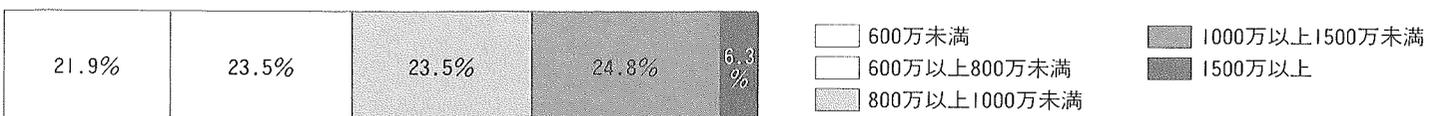
(4) 住居形態



(5) 住居面積



(6) 世帯年収



6. 調査結果要約

1. コミュニケーションの実態

(1)コミュニケーションの方法として「相手と直接会っての会話」、目的として「お互いに理解しあうこと」をあげる人が9割以上であり、コミュニケーションとは“相手との直接会話による相互理解”だという認識がみられる。またコミュニケーションの特に重要な相手は「夫」とする人が多く、コミュニケーションの基本は“夫婦”だと考えられているようだ。

(2)家庭内での会話は「朝食時」「夕食時」「夕食後のくつろぎの時」など“食事時”に行われることが多い。ただ夫婦間・母子間の会話頻度が多いのに対し、父子間は全体的に少ない。その反省からか、父子間で会話の増加意向が高くなっている。

(3)DEWKSは会話が不足がちだと言われるが、“食事時”の夫婦間・母子間の会話頻度は専業主婦と比べて差はほとんどみられなかった。父子間ではむしろDEWKSの方が会話場面が多い。

(4)会話頻度ではあまり差がないものの、DEWKSの妻に子どもとの会話の増加意向が高くなっている。日頃の忙しい生活で会話が不足しているのではないかという強迫観念の現れであろうか。

2. 家族団らんの充実度からみた会話の実態

(1)家族の団らんが充分だと感じている家庭は全体の6割以上。大半の家庭は現状のコミュニケーション状況に満足している。

(2)妻の就業状況別ではパートタイム就労主婦・フルタイム就労主婦に団らんが不足していると感じている人が多い。ただ勤務時間別では週35時間未満勤務の人に満足度が低く、勤務時間が長くなるほど満足度が高くなることから、団らんの充実には妻の就労以外の要因があるようだ。

(3)家族団らんが充分な家庭と不十分な家庭の違いをみると、団らんが充分な家庭では夫婦間・父子間に会話の頻度が多い傾向にある。母子間の会話の頻度にはほとんど差がなかった。会話の場面で見ると「お茶を飲んでいる時」「TV・ビデオを見ている時」「夕食後のくつろぎの時」「夕食時」での差が大きく、くつろいで話ができるこれらの場を持つことが家族団らんの充実につながるといえる。

(4)家族団らんが充分な家庭は会話の話題も豊富で、特に夫婦間・父子間で色々な話題が話されている。反対に家族団らんが不十分な家庭では、夫婦間で「生活態度」「性格」に関する話題、父子間で「しつけ」の話題が目立っている。

3. コミュニケーションを充実させるには

(1)コミュニケーションの充実を図る方法としては「平日の不足を休日で補う」「家事を家族で一緒にする」をあげる人が多かった。「通信機器・伝言板」の利用意向は低く、コミュニケーションの充実には人と人が直接会話する時間が必要であることが分かる。

(2)夫の帰宅時間と家族団らん充実度の関係をみると、団らんが充分な家庭の夫は7～8時、不十分な家庭の夫は9～10時に帰宅のピークがある。夫の早い帰宅が家族団らんの充実につながるといえるだろう。

(3)家族団らんが充分な家庭では、朝の挨拶を交わしている率が高い。ちょっとしたことだが、コミュニケーションを円滑にするには、まず朝の挨拶から始めるのが効果的といえる。

(4)家事を家族一緒にすることでコミュニケーションを図りたいと思う人が多く、また実際に家族団らんの充実している家庭の方が、家族の家事協力度が高い。

Ⅱ. コミュニケーションの実態

近年、家族のコミュニケーションの大切さが問われることが多いが、コミュニケーションとは何かというと漠然としたイメージしか浮かんでこない。

ここでは、コミュニケーションがどう捉えられているのか、
またその実態はどうなっているかを調べてみた。

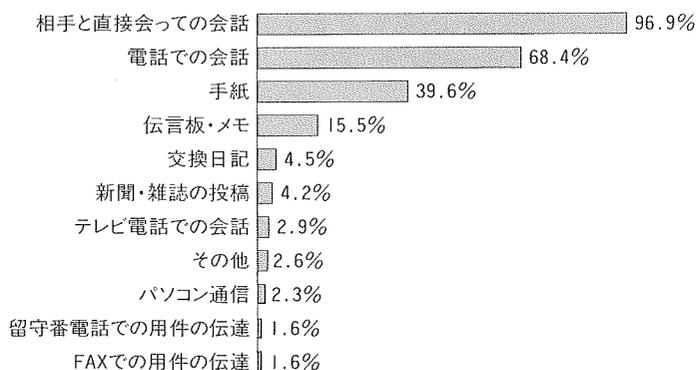
1. コミュニケーションとは

■コミュニケーションは「相手と直接会っての会話」が基本

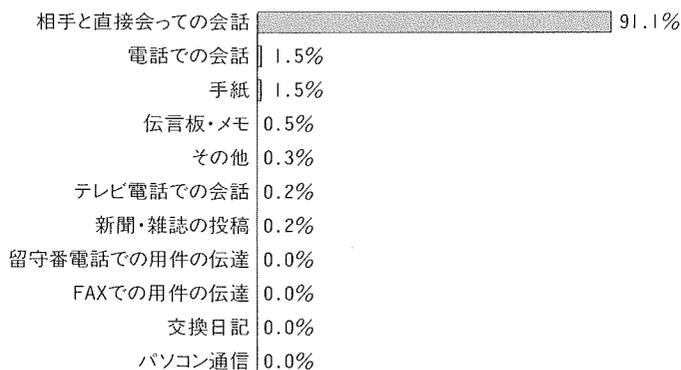
我々が日常生活の中でコミュニケーションをはかる様々な方法の中でコミュニケーションの方法とされているのは「相手と直接会っての会話」(96.9%)、「電話での会話」(68.4%)、「手紙」(39.6%)、「伝言板・メモ」(15.5%)の順であった。最も重要なコミュニケーションの方法とされているのは「相手と直接会っての会話」(91.1%)であり、「相手と直接会う」ことがコミュニケーションの基本となっていることがわかる。

●どんな方法をコミュニケーションと考えますか

(複数回答)



●最も重要なコミュニケーションの方法

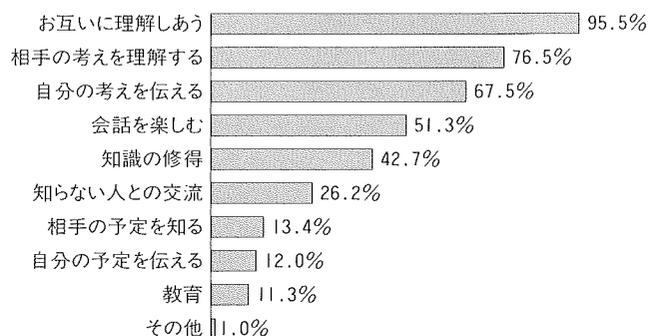


■コミュニケーションの目的は「お互いに理解しあう」こと

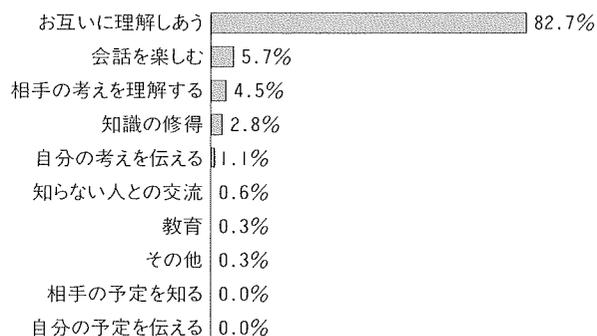
コミュニケーションの目的は「お互いに理解しあう」(95.5%)、「相手の考えを理解する」(76.5%)、「自分の考えを伝える」(67.5%)、「会話を楽しむ」(51.3%)の順となっている。最も重要なコミュニケーションの目的は「お互いに理解しあう」(82.7%)がトップになっていることから、コミュニケーションの目的の第1はお互いに理解しあうことである。「会話を楽しむ」がコミュニケーションの目的の4番目(複数回答)に上がっているが、これは相互理解があった上で成り立つものであると言えよう。

●コミュニケーションの目的は何だと思えますか

(複数回答)



●最も重要なコミュニケーションの目的

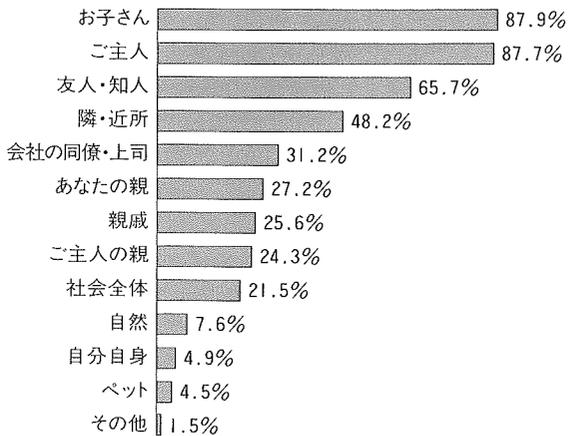


■コミュニケーションの相手は「家族」

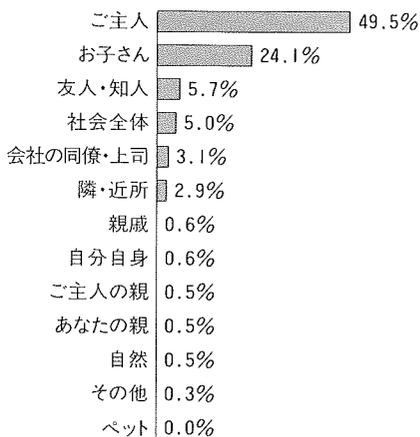
コミュニケーションの相手としては「子ども」(87.9%)と「夫」(87.7%)のスコアが高く、家族とのコミュニケーションがやはり第一に考えられている。

最も重要なコミュニケーションの相手としては、「夫」が「子ども」を大きくしのいでトップになっており、家族コミュニケーションの基本は「夫婦」だと認識されていることがわかる。

● コミュニケーションという場合、どなたとのコミュニケーションを考えますか(複数回答)



● 最も重要なコミュニケーションの相手



2. 家庭内での会話の頻度

■ 食事時に多くされている会話

夫婦間、母子間、父子間のいずれも「朝食時」、「夕食時」、「夕食後のくつろぎの時」に会話が多く行なわれている。食事は家族にとって大切なコミュニケーションの機会であることがわかる。

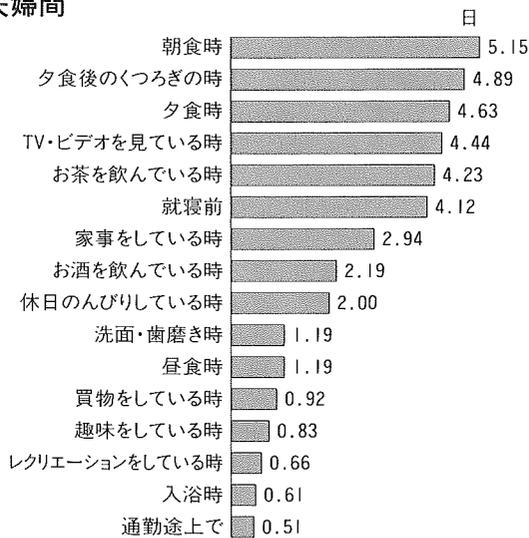
■ 少ない父子間の会話

夫婦間・母子間の会話は主な場面で週4～6日みられるが、父子間の会話は最も多い「夕食後のくつろぎの時」ですら3.7日ときわめて少なくなっている。家庭内での会話で今後問題となってくるのは“父子間の会話”であろう。

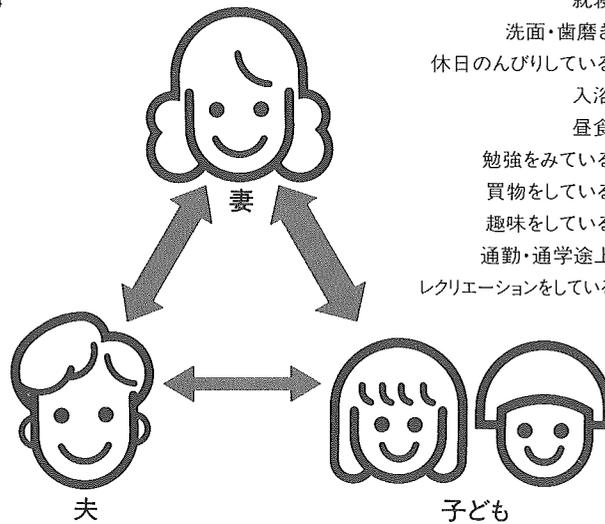
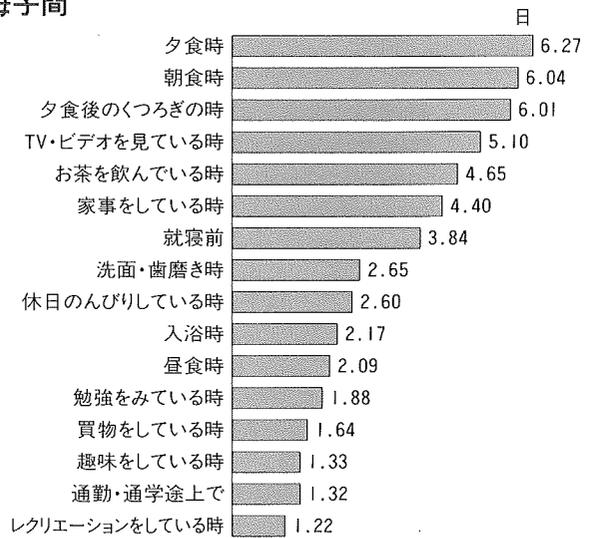
※「会話」とは内容と長さにかかわらず、言葉を交わすことを指す。

● この1週間に、それぞれの場面で会話が何日ありましたか(平均日数)

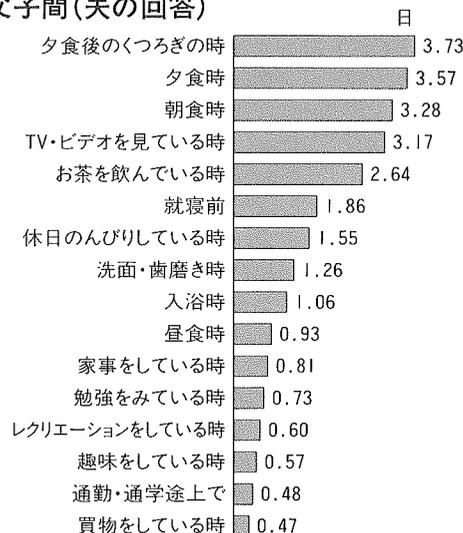
夫婦間



母子間



父子間(夫の回答)



■ DEWKSは家族一緒に食事をとるパターンが多い

夕食を家族の誰と一緒にとるのか尋ねたところ、DEWKSは“家族全員”、専業主婦家族は“妻子”が一番多かった。朝食も同様の結果が出ている。

<妻の就業状況別比較>

■就業状況によって差がない夫婦の会話の頻度

夫婦の会話の頻度は就業状況による差はみられなかった。

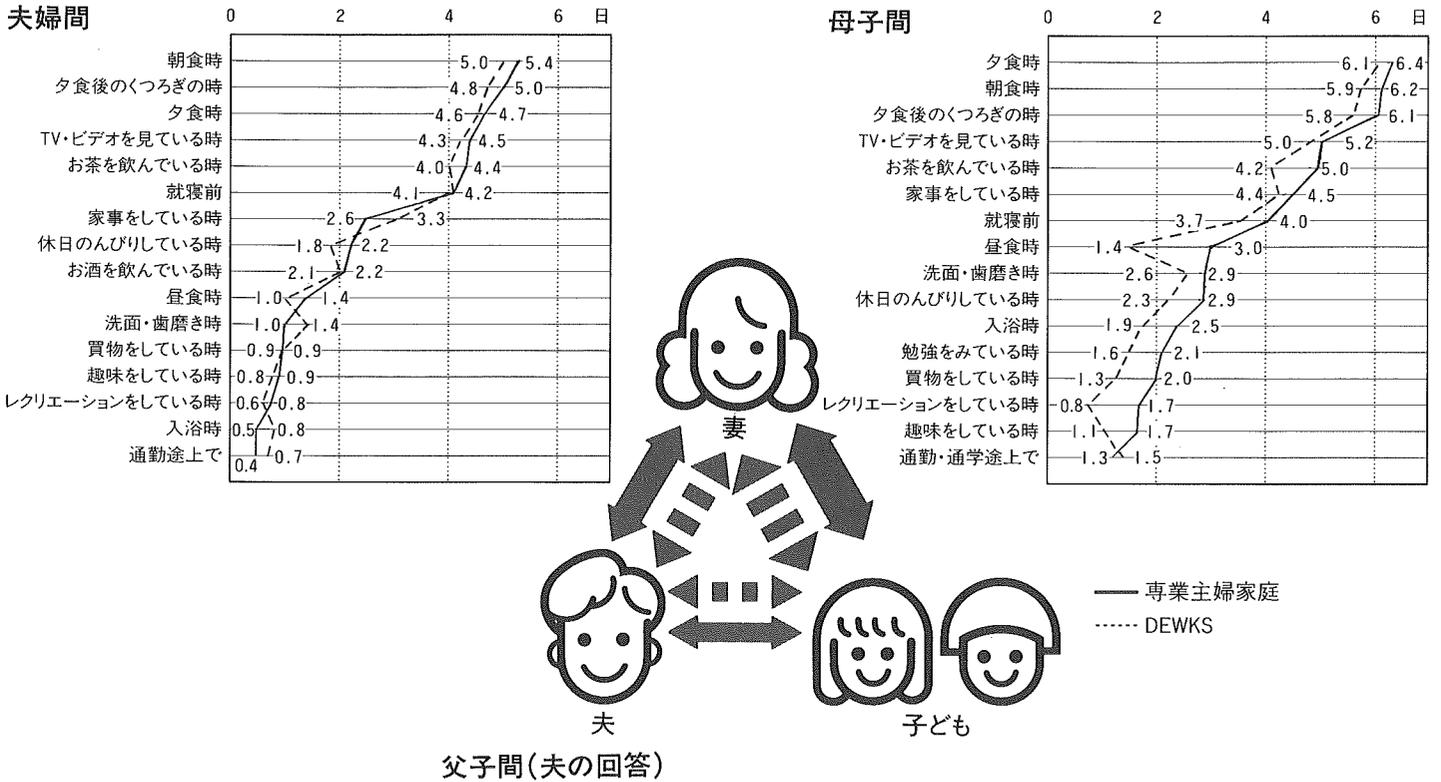
■平日の夜の場面ではほとんど差のない母子間の会話の頻度

母子間では、家庭内に子どもと一緒にいる時間がもともと長い専業主婦は「昼食時」「お茶を飲んでいる時」「レクリエーションをしている時」などの会話場面が多い。しかし食事、だんらんなど平日の夜の場面では就業状況の違いによる会話の頻度の差はほとんどない。

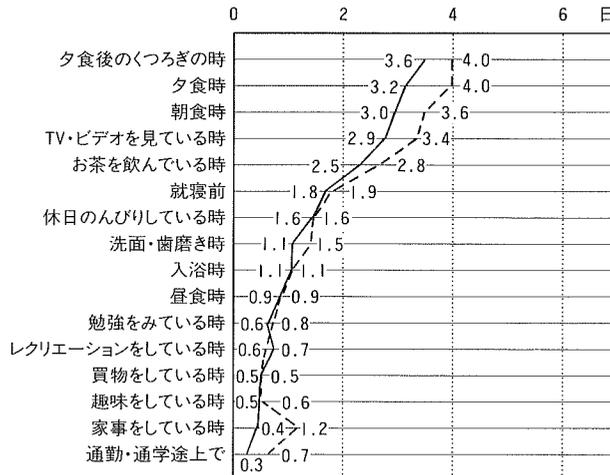
■だんらん・食事時に父子間の会話の頻度が多いDEWKS

DEWKSでは「食事時」や「夕食後のくつろぎ時」、「家事をしている時」の父子間の会話の頻度が専業主婦家庭より多くなっている。以上の結果からは、これまで言われているような夫婦間、母子間の会話がDEWKSに特に少ないという傾向は見られなかった。むしろ、DEWKSの方が父子間の会話が多い傾向にあり、夫妻で協力して家庭内コミュニケーションをはかっている様子がうかがえる。

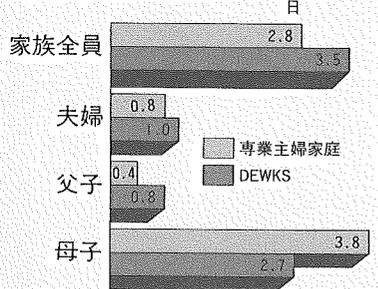
●この1週間に、それぞれの場面で会話が何日ありましたか(平均日数)



父子間(夫の回答)



●この一週間で家族が一緒に夕食をとったのは何日ですか。(複数回答)



3. 家庭内での会話の増加意向

■父子間に強い増加意向

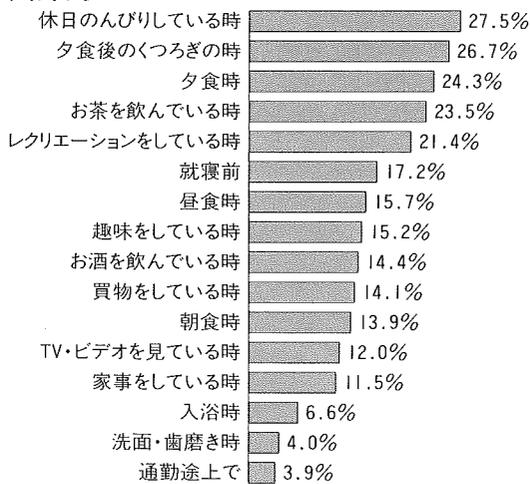
全体的に増加意向が高いのは父子間の会話である。次が夫婦間の会話。母子間では大半が2割以下で、日頃充分にコミュニケーションがとれているためか、それほど要望は高くない。

■増やしたい「休日」「夕食」「だんらん」の時の会話

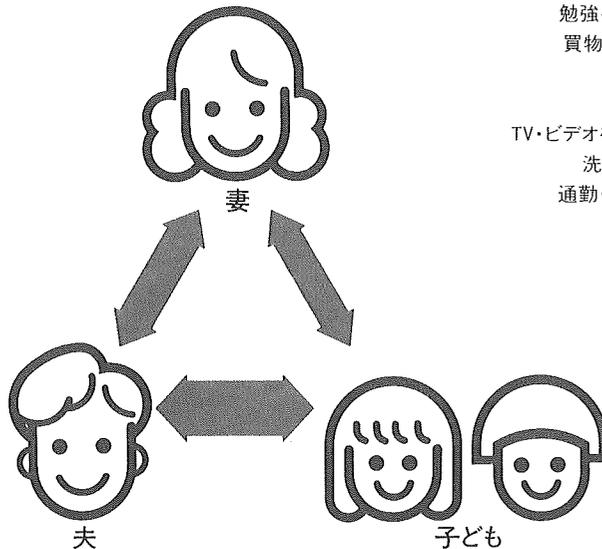
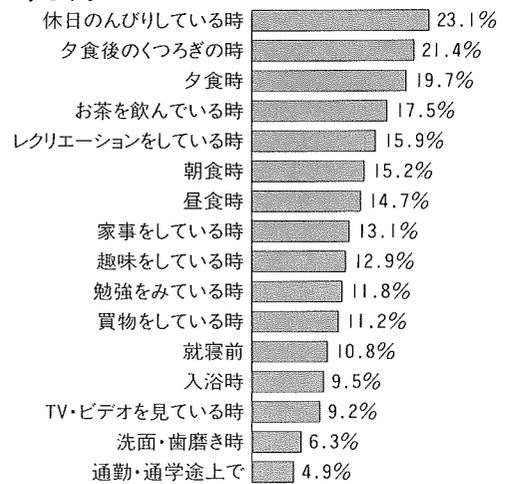
「休日のんびりしている時」「夕食時」「夕食後のくつろぎの時」の会話は相手に関係なく高い増加意向がある。父子間では「夕食時」が一番要望が高く、休日のみならず平日でもコミュニケーションを増やしたい様子が見える。

●それぞれの場面での会話を増やしたいと思いますか(“増やしたい”の回答率)

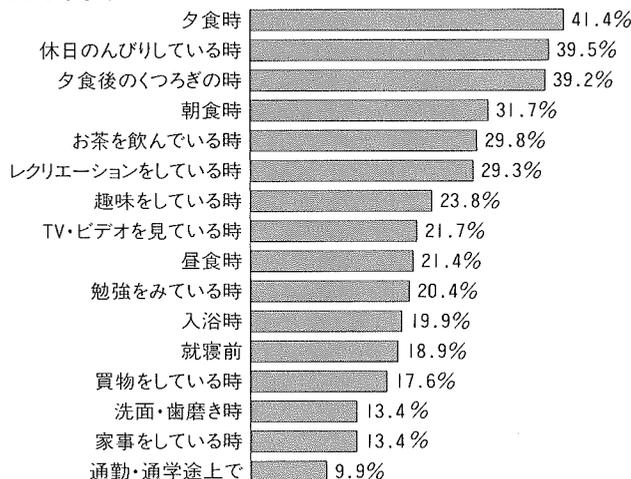
夫婦間



母子間



父子間 (夫の回答)



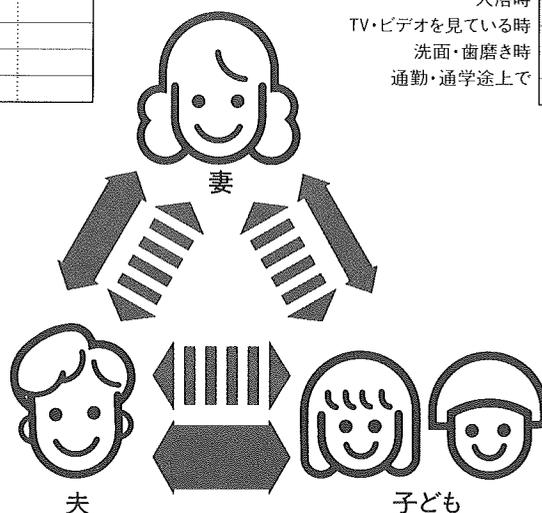
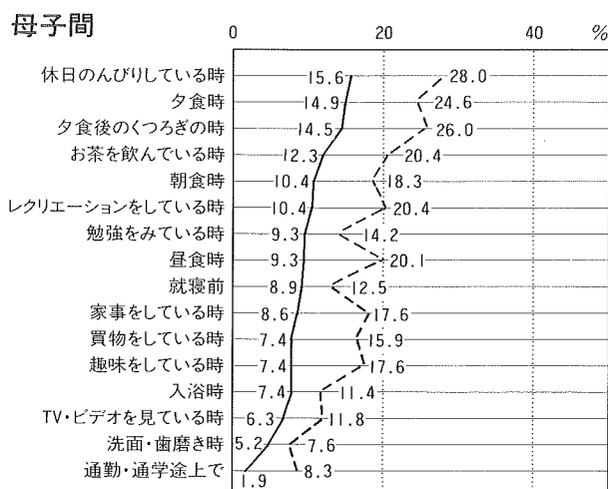
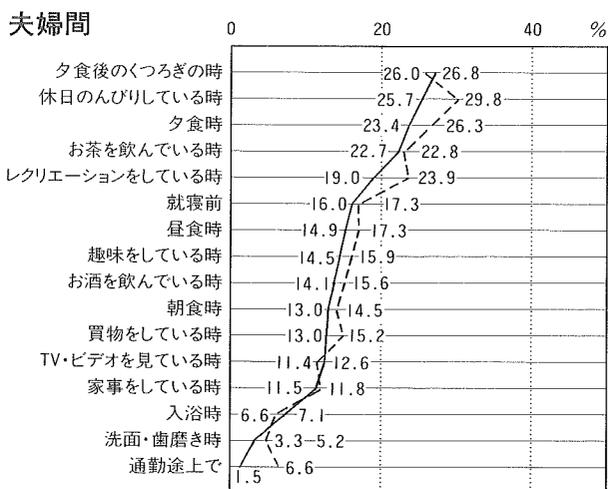
<妻の就業状況別比較>

■DEWKSに多い母子間の会話の増加意向

会話の頻度にはあまり差がなかったのに対し、DEWKSの母子間で会話の増加意向が高い。これはDEWKSの忙しい生活で会話が不足しているという強迫観念のあらわれではないかと思われる。

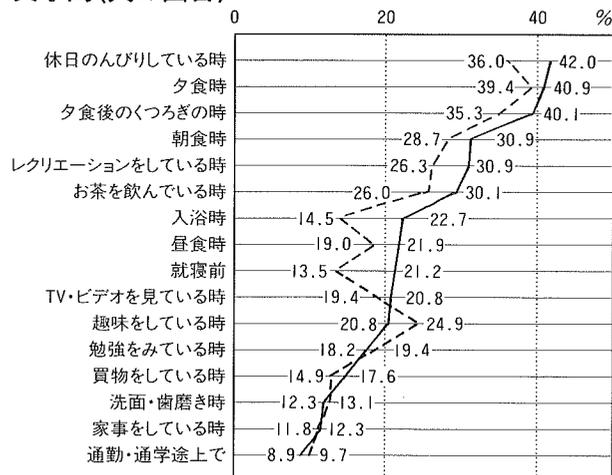
父子間では、DEWKSの夫は普段やっているという自負があるためか増加意向は低く、会話頻度の少なかった専業主婦家庭の方が、増加意向が高い。

●それぞれの場面での会話を増やしたいと思いますか(“増やしたい”の回答率)



— 専業主婦家庭
 - - - DEWKS

父子間(夫の回答)

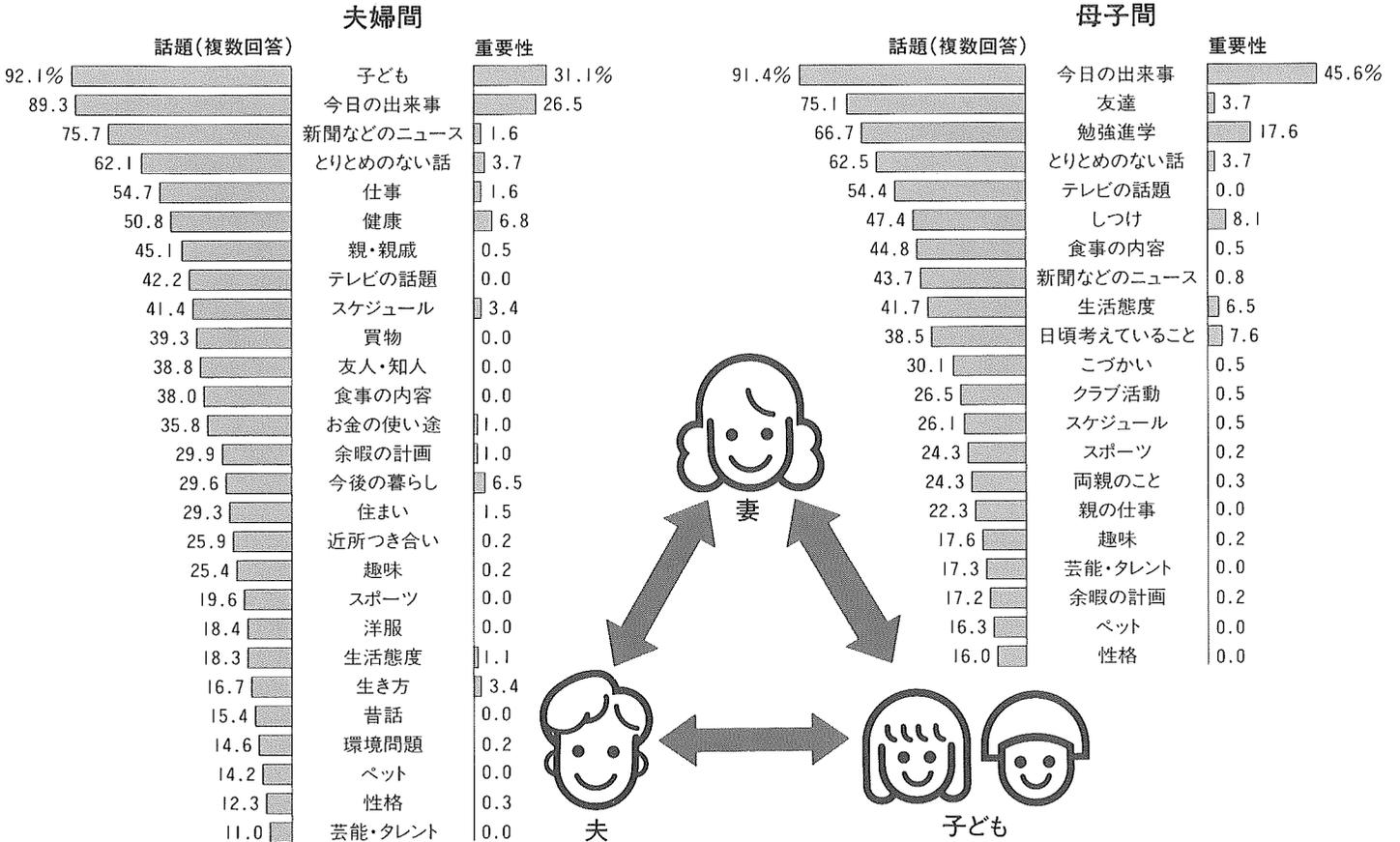


4. 家庭内での会話の話題

■ 会話の話題は「今日の出来事」が多い

家庭内のコミュニケーションの話題はほとんどが「今日の出来事」である。特に親子間の会話の話題は日常の出来事と勉強進学に関するものが多く、その重要性も高くなっている。夫婦間では「子ども」「今日の出来事」が多く、それらの話題の重要性も高くなっている。

● 会話では、どんなことが話題になってますか。またその中で一番重要な話題はどれですか。

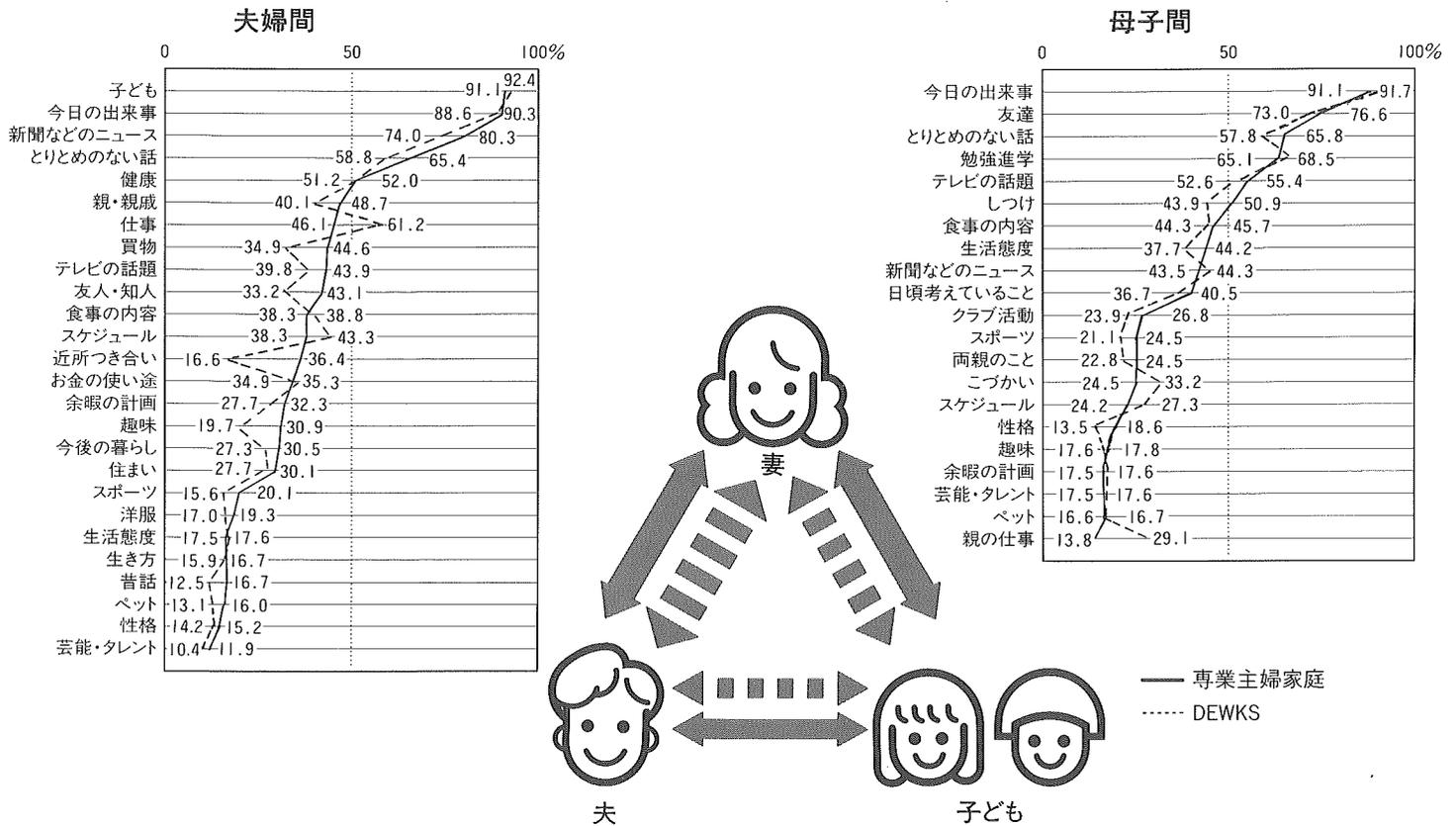


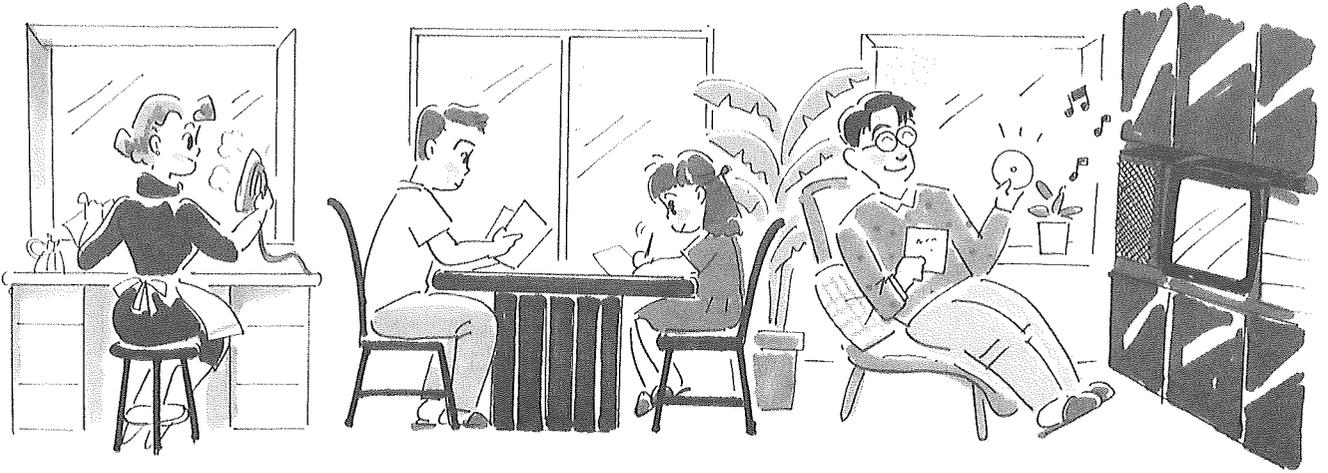
<妻の就業状況別比較>

■就業状況によって異なる会話の話題

夫婦間では、DEWKSは専業主婦家庭と比較して全体的に話題は少なくなっている。子どもの話題や日常的な会話では差がないものの、DEWKSでは「仕事」、「スケジュール」の話題が多く、「近所つき合い」、「買物」、「友人・知人」、「趣味」の話題が少なくなっている。母子間では専業主婦家庭と大きな差はみられないものの、DEWKSでは「とりとめのない話」、「しつけ」、「生活態度」の話題が少なくなっている。また母子間で「親の仕事」の話題が多いのは、DEWKSらしい側面でもある。父子間の会話の話題はDEWKSの方が全体的に多くなっており、母子間で不足している分を父子間で補っているようだ。

● 会話では、どんなことが話題になってますか。





Ⅲ. 家族団らんの充実度からみた会話の実態

コミュニケーションが“相手と直接会っての会話”だと捉えられていることはこれまでの分析で判明したが、ではコミュニケーションの上手くいっている家庭とそうでない家庭では、会話にどのような違いがみられるのだろうか。

ここでは“家族団らん”に対する充実度から分析をすすめてみた。

1. 家族団らんの充実度

■ 家族団らんができていない家庭は63.3%

家族団らんが十分にできていると感じている家庭は全体の63.3%、できていない家庭は22.2%である。大半の家庭は、現在の家族団らん状況に満足しているといえる。

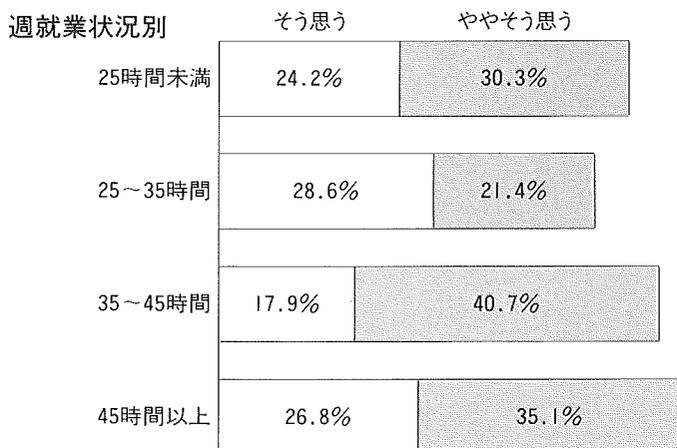
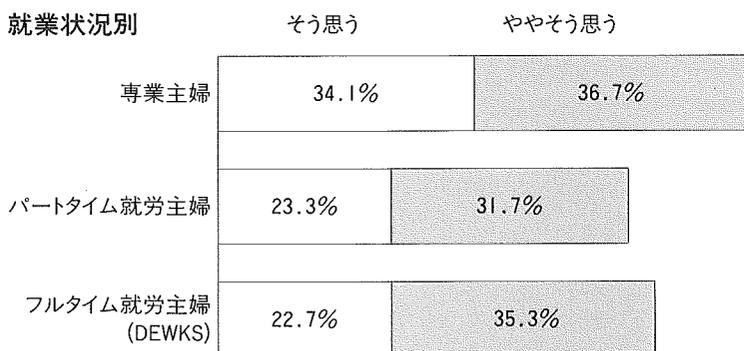
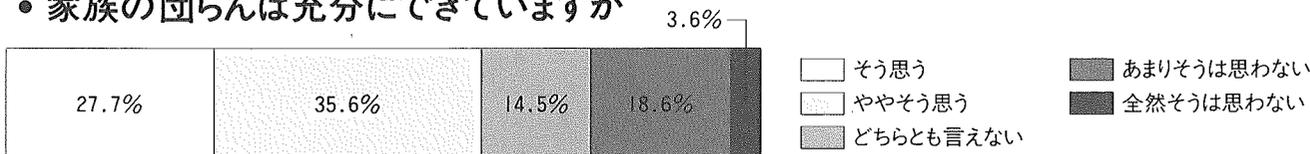
■ 専業主婦家庭に高い家族団らんの充実度

専業主婦家庭では、家族団らんが充分できていると感じている人が全体平均よりも高く、パートタイム就労主婦、フルタイム就労主婦では平均よりも低くなっている。

■ 週25～35時間勤務主婦に不足している家族団らん

就業時間別に有職主婦の家族団らんの充実度を見てみると、週25～35時間勤務の主婦に家族団らんが不足していることがわかる。また一番忙しい週45時間以上勤務の主婦に充実度が高いことをみると、家族団らんの充実度には、妻の忙しさ以外の要因があると考えられる。

・ 家族の団らんは充分にできていますか



2. 家族団らんの充実度と会話の頻度

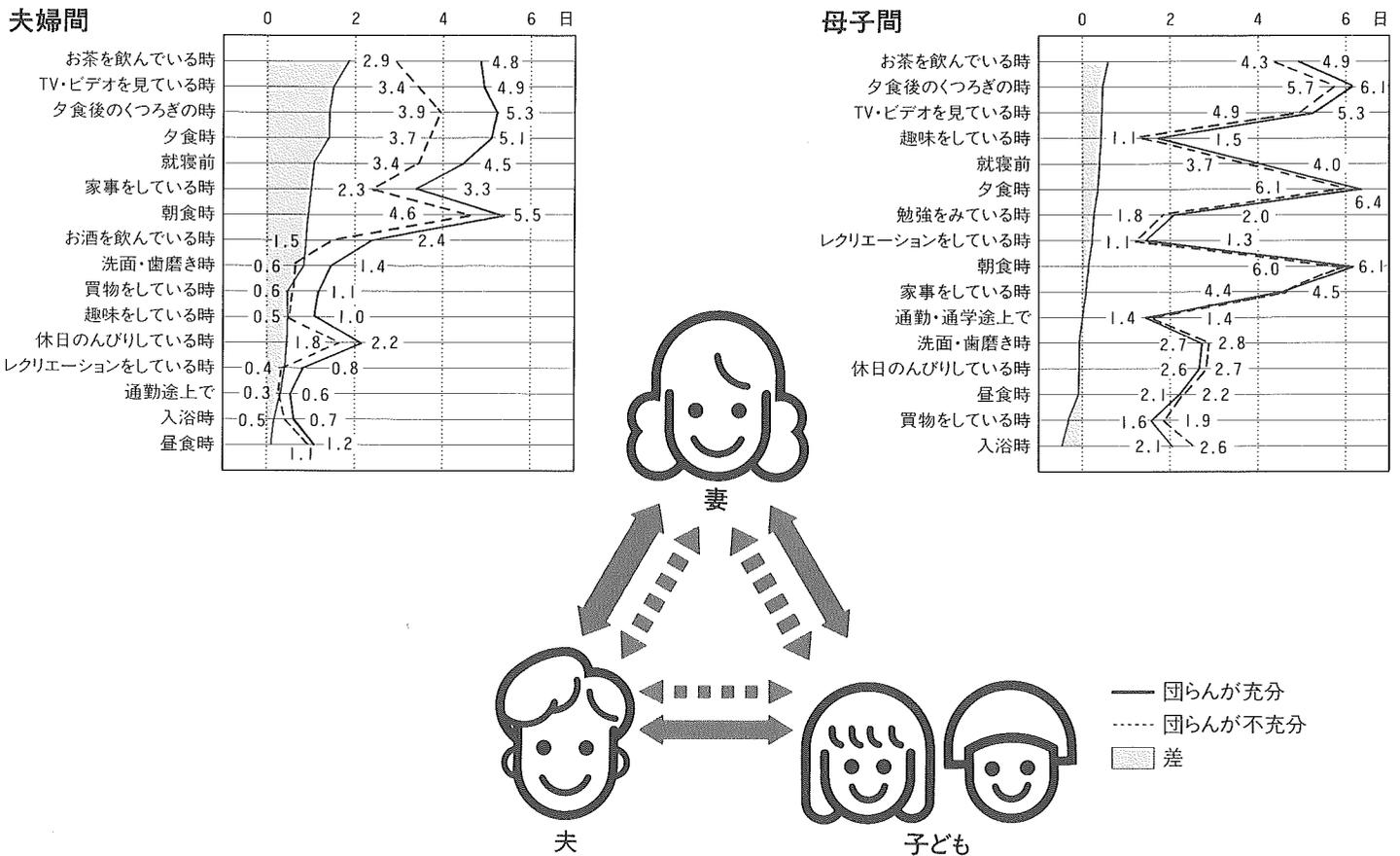
■ 家族団らんが十分な家庭は夫婦間、父子間の会話が多い

家族団らんが十分な家庭と不十分な家庭別に会話の頻度を見てみると、家族団らんが十分な家庭は夫婦間、父子間の会話が多くなっていることがわかる。母子間では差がないことから、家族団らんの充実には夫の存在がキーポイントになるようだ。

■ 家族団らんが不十分な家庭に不足している「お茶をのんでいる時」「TV・ビデオを見ている時」「夕食後のくつろぎの時」「夕食時」の会話

家族団らんが十分な家庭と不十分な家庭で、会話頻度の差が大きいものは「お茶をのんでいる時」「TV・ビデオを見ている時」「夕食後のくつろぎの時」「夕食時」の会話である。これらの機会を持つことが家族団らんの充実へとつながるであろう。

● この一週間に、それぞれの場面で会話が何日ありましたか(平均日数)



3. 家族団らんの充実度と会話の話題

■ 家族団らんが十分な家庭は会話の話題も豊富

夫婦間、親子間の話題どれについても家族団らんが十分な家庭の方が会話の話題が多くなっている。家族団らんが不十分な家庭では、特に夫婦間、父子間の話題の少なさが目立つ。

■ 夫婦間のコミュニケーションの注意信号は「生活態度」「性格」に関する話題

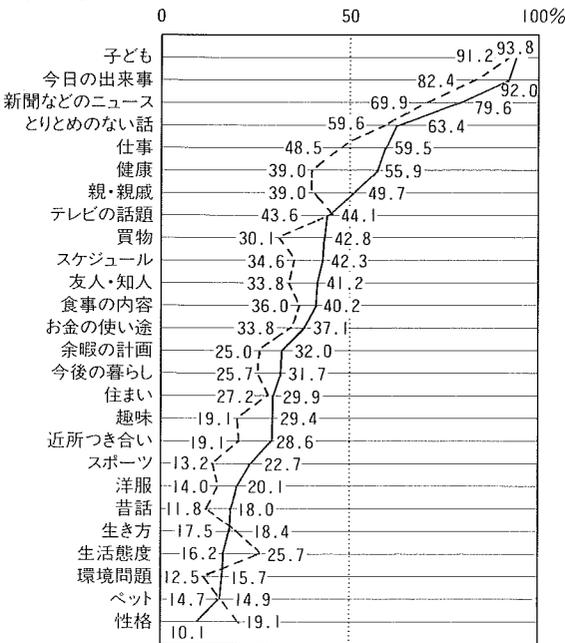
家族団らんが不十分な家庭の夫婦間の話題をみると、「生活態度」「性格」に関する話題が団らんが十分な家庭より多くなっていることがわかる。これらの話題が目立つようになってきたらコミュニケーションが不足していると考えられるべきであろう。家族団らんが不十分な家庭では「健康」「仕事」「買い物」「趣味」についての会話が少なくなっているため、これらに関する会話を心がけたい。

■ 父子間の会話の注意信号は「しつけ」に関する話題

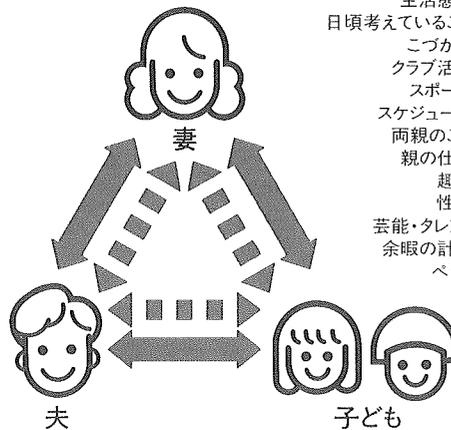
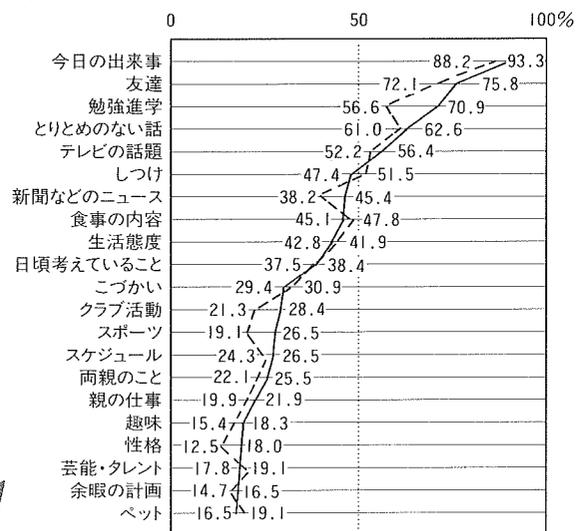
家族団らんが不十分な家庭の父子間の話題をみると、「しつけ」の話題が団らんが十分な家庭より多くなっている。「しつけ」の話題が目立つようになってきたら父子間のコミュニケーション不足の注意信号とも考えられる。家族団らんが十分な家庭と不十分な家庭に差がある「新聞などのニュース」「テレビの話題」「友達」「スポーツ」などの話題で会話を持つことによってコミュニケーション不足を解消できると思われる。

● 会話では、どんなことが話題になってますか

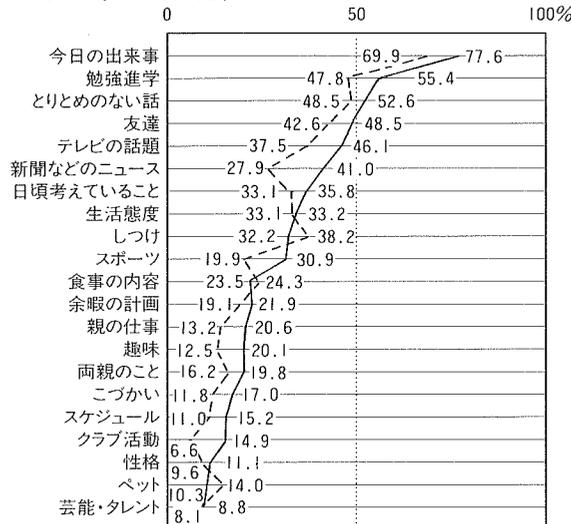
夫婦間



母子間



父子間(夫の回答)



IV. コミュニケーションを増加させるには

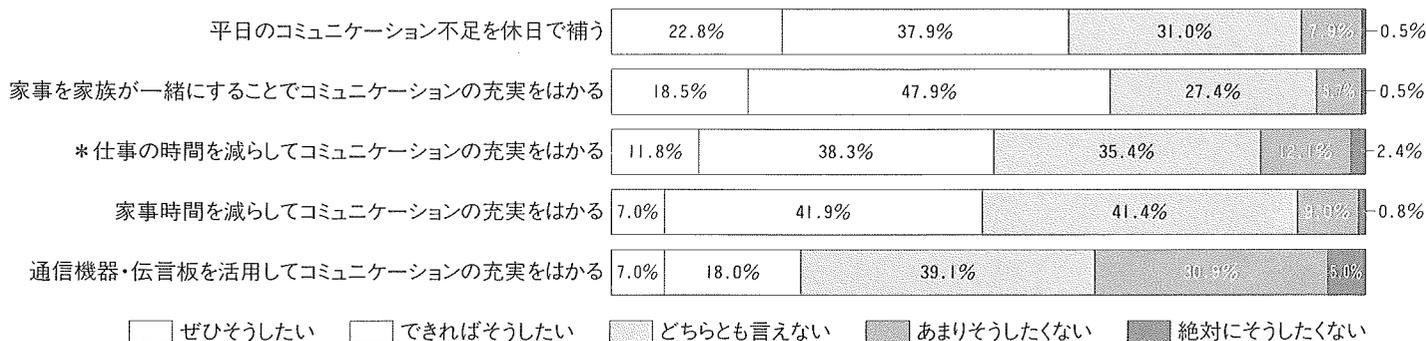
前章でどういう場面での会話が重要かは判明したが、
それ以外でコミュニケーションの満足度の低い家庭が、
コミュニケーションを円滑にするためのヒントをいくつか集めてみた。

1. 在宅時間の増加

■人と人が直接会うことがコミュニケーションの充実をはかる

コミュニケーションの充実をはかる方法として「平日のコミュニケーション不足を休日に補う」「家事を家族で一緒にする」があげられ、「通信機器・伝言板の活用」は希望が少なかった。このことからコミュニケーションの充実には人と人が直接会う時間を持つことが必要であることがわかる。

● コミュニケーションの充実をはかる方法の意向 (*はDEWKSのみの数値)



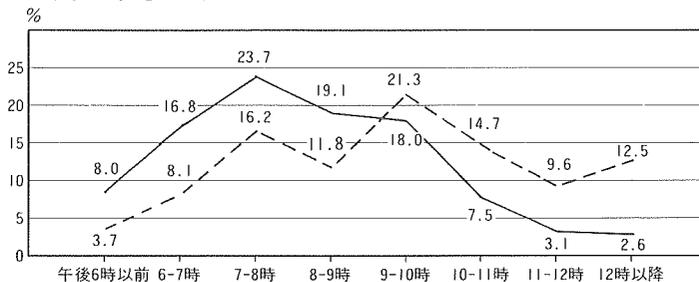
□ ぜひそうしたい □ できればそうしたい ▨ どちらとも言えない ▩ あまりそうしたくない ■ 絶対にそうしたくない

■夫の帰宅時間が早いほど家族団らんの充実度は高い

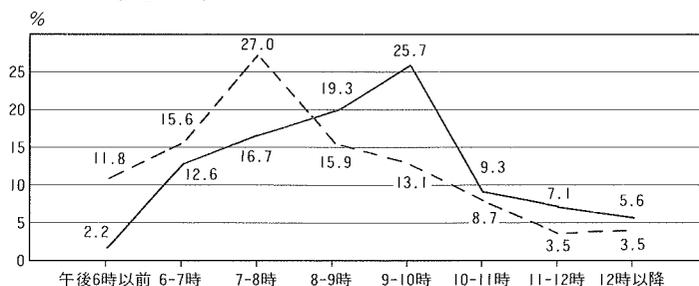
家族団らんの充実と夫の帰宅時間の関係をみると、団らんが充分な家庭の夫は7～8時に帰宅時間のピークがあり、不十分な人は9～10時にピークがある。このことから夫の帰宅時間が早いと平日の家族団らんが充分にとれ、家族のコミュニケーションが円滑になることがうかがえる。

—— 団らんが充分 - - - - 団らんが不十分

● 夫の帰宅時間



● 夫の帰宅時間



■DEWKSの夫は帰宅が早い

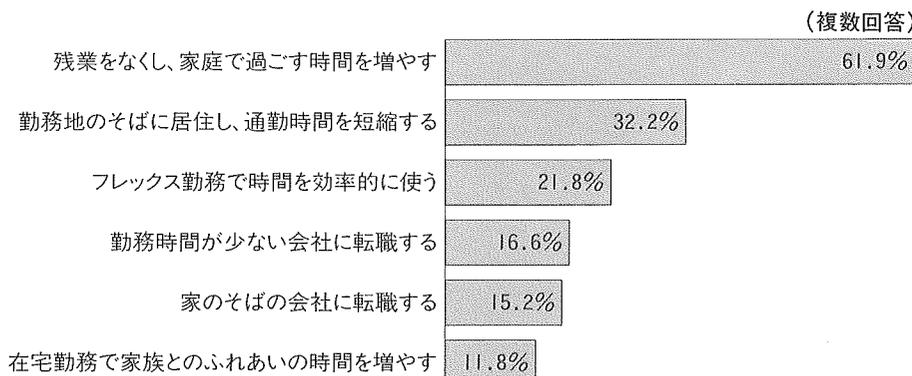
DEWKSの夫は7～8時が帰宅のピーク。家事や育児協力のためか早く帰る人が多い。反対に家事参加に必要性を感じていないためか、専業主婦の夫は帰宅時間のピークが9～10時になっている。

—— 専業主婦家庭 - - - - DEWKS

■残業をなくし家庭で過ごす時間を増やしたいと思っているDEWKSの妻

DEWKSの妻が、コミュニケーションを充実させるために仕事の時間を減らす方法としてあげているのは「残業をなくし、家庭で過ごす時間を増やす」「勤務地のそばに居住し、通勤時間を短縮する」である。残業削減による労働時間の短縮はDEWKSの妻に最も求められているものといえよう。

● 仕事の時間を減らす方法の意向 (DEWKSのみの数値)



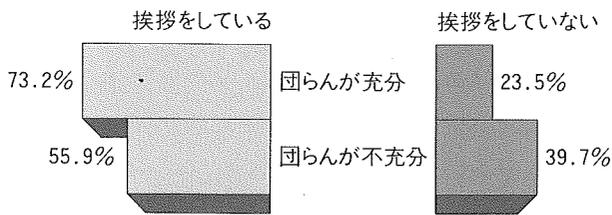
2.朝の挨拶

■朝の挨拶ができている家庭は家族団らんができている

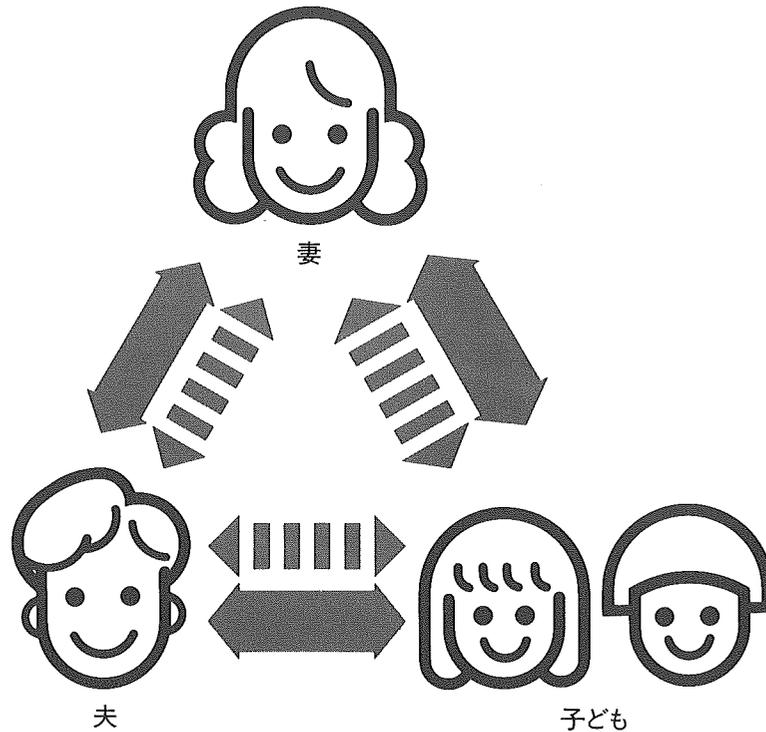
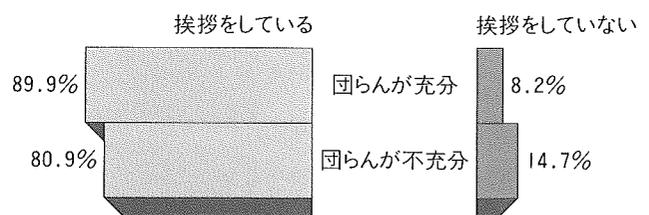
団らんが十分な家庭と不十分な家庭で朝の挨拶の状況を見てみると、団らんが十分な家庭では朝の挨拶がよく行われていることがわかる。ちょっとしたことだがコミュニケーションを円滑にするには、まず朝の挨拶から始めるのが効果的であるといえる。

●朝の挨拶は、交わしていますか

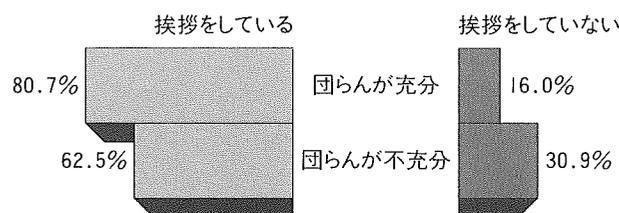
夫婦間



母子間



父子間

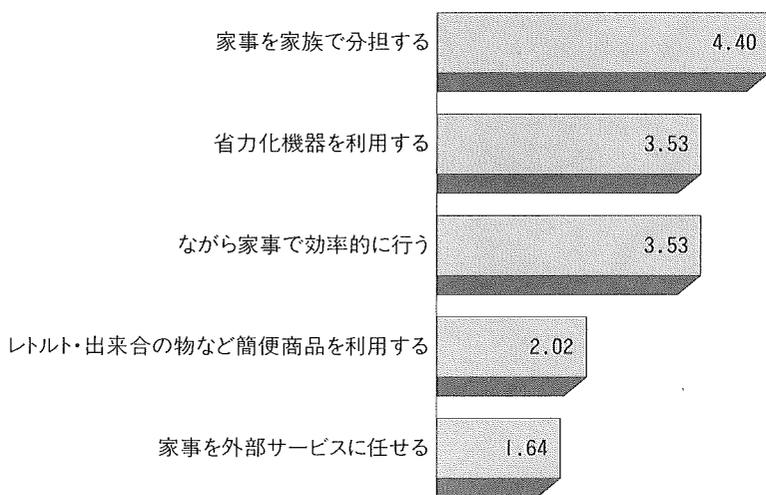


3. 家族の家事協力

■「布団の上げ下げ」「夕食後の片付け」「掃除」「夕食の準備」などの家事協力のできている家庭は家族団らんができています

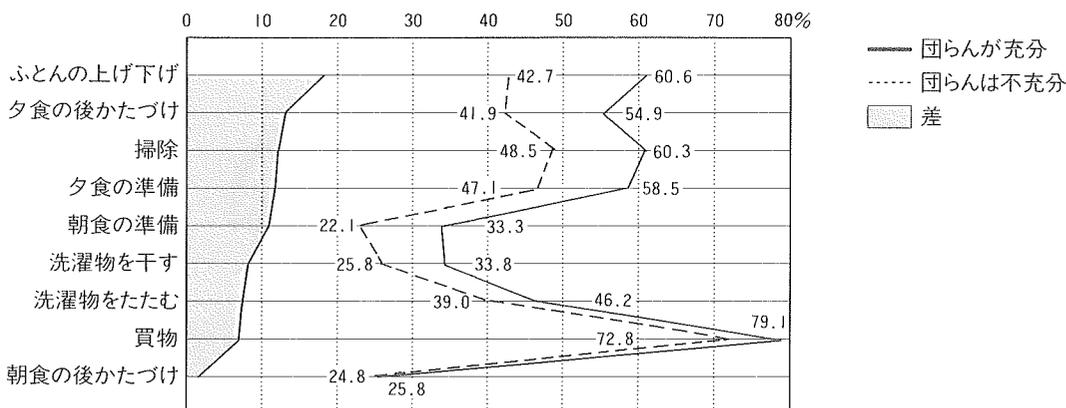
コミュニケーションを充実させる方法(P.20)として「家事を家族が一緒にする」が2番目にあがっている。家事時間を減少させる方法としても、「家事を家族で分担する」を望む人が多く、機器やサービスの利用で手軽に済ませるよりも、コミュニケーションを兼ねて、家族と一緒に家事をやりたいと考える人が多い。この家事協力と団らんの充実度をみてみると、団らんが充実している家庭では、「布団の上げ下げ」「夕食の後かたづけ」「掃除」「夕食の準備」などの家事が団らんが不十分な家庭と比較して協力できている。家事協力によってコミュニケーションを充実させるには、「布団の上げ下げ」「夕食の後かたづけ」「掃除」「夕食の準備」など家族の誰にも手伝いやすい家事から協力してもらうとコミュニケーションが充実し、家族団らんの充実につながるであろう。

● 家事時間減少のための方法への意向



左記の5項目について、行ってみたい順に1位から5位まで順位づけをさせ、1位を5点、2位を4点、3位を3点、4位を2点、5位を1点として計算した数値。

● 家族団らんの充実度と家事協力率(家族2人以上で一緒にする家事)



家族コミュニケーションの状況と そのあり方に関する調査

～共働き家族と専業主婦家族の比較をまじえて～

1991年8月

共働き家族研究会

- | | | |
|------------|-------------------------|--------------|
| 旭化成工業株式会社 | ●共働き家族研究所 | |
| 東京ガス株式会社 | ●都市生活研究所 | |
| 東陶機器株式会社 | ●生活研究室 | ●システムキッチン開発課 |
| 日本電信電話株式会社 | ●サービス開発本部 | ●ISDN推進部 |
| 松下電器産業株式会社 | ●住空間システムセンター | |
| | ●ヒューマン エレクトロニクス研究所 | |
| | ●電化本部 | ●コンピューター(事) |
| | ●キッチンライフ(事) | ●住設 生活研究センター |
| | ●冷機 デザインセンター | ●精工 生活研究センター |
| ヤマハ株式会社 | ●リビング事業部 (住空間研究室・商品企画室) | |

この調査についての問い合わせ先

共働き家族研究会 事務局(久保・杉本) ☎03-3344-7096

転載する場合はあらかじめご連絡下さい。

